農家主体の農業塾で人材育成
経会・中筋会長が事例発表
滋賀県指導農業士会研究会

2月12日、大阪府農業経営者会議の中筋秀樹会長が、滋賀県草津市で開催された滋賀県指導農業士会研究会において、「農業人材を地域で育てたい！～富田林市きらめき農業塾の設立と運営～」と題して講演を行った。以下は、講演要旨。

（講演要旨）

「富田林市きらめき農業塾」は、農業者が主体となり、実践的な学びを提供する場として4年前に設立。現在は24人の農家が参画し、自分は運営責任者として関わっている。

自身の農園の経営の安定を図る中で、地域の担い手育成の重要性を痛感。また、平成30年の台風21号で甚大な被害を受け、地域の農家同士の助け合いの必要性を実感したことは、同年に地元の農家仲間と「おおきにアグリ株式会社」を設立することにも繋がった。

塾では、基礎農場での栽培研修や座学に加え、市内24農家による「農家研修」を実施。ツアー形式で農家を訪問し、興味を持った農家への個別研修の機会も提供している。座学では、農地法や経営手法など多岐にわたるテーマを外部講師から学ぶ。

参加する農家は、ほ場での研修の受け入れはしてくれたものの、運営面では各々の温度差があり当初は苦労した。役割を明確化することで、塾運営に関わる度合いや各々の適切な距離感をうまく定めることができた。

研修が修了すると、地元で雇用・新規就農する者が一定数いる一方で、受入農家の農地を練習用として提供する「チャレンジ農地制度」を活用する修了生もいる。チャレンジ農地制度では、修了生が生産した作物を生協店舗で販売する機会も設けている。また、雇用就農者の中には、それまでの企業経験を活かして農園のＩＴ化を推進するなど、地域農業に貢献している者もいる。

今後は、修了生向けの販路整備や、独立を支援する仕組みづくりに注力する予定だ。さらに、農業者同士が協力し、相互に学び合う環境を醸成することで、地域農業の発展に寄与していきたいと考えている。

（沼田）

農業者自ら農業塾を運営する故のメリットや苦労について説明した

情報交換から新たな取り引きを
農業者と食品事業者で交流会

大阪府環境農林水産部農政室推進課経営強化グループは2月18日に、大阪市・ＯＭＭビルで「農業者と食品関連事業者のマッチング交流会」を開催した。

当日は直接取引や契約出荷を希望する府内の農業者18経営体（30人）がブースを出展。32社（55人）の食品関連事業者が新鮮な農産物を生産者から直接仕入れることなどを目的に参加した。

当日は、初めに各農業者が自身の生産する農産物や加工品などのＰＲ、六次産業化や販路拡大など今後の経営方針を説明し、個別交流がスタートした。

ブースを出展した柏原市でブドウを栽培する「稲清農園」の稲山純生さんは「六次産業化は農家の力だけでは難しいところもある。新しい人脈や食品業界のニーズなどの情報も得られたので、事業者とタッグで行う加工品販売事業などにつなげたい」と話す。

本イベントは府とＪＡグループ大阪が主催の農業経営塾「トップセールス農業経営セミナー」のカリキュラムとしての側面を持ち、出展者にはセミナーの受講生もいた。農業者の伝えたい情報と事業者の知りたい情報を1枚にまとめることで、効率的に商談を進めることを可能にする「ＦＣＰ展示会・商談会シート」を作成し、セミナーで身に着けた商談スキルの実践に臨んだ。

経営強化グループの田所佳奈副主査は「農業者の経営改善の取り組みとして、今後とも情報交換や人脈形成のきっかけとなる場を提供したい」と話す。

（林佑）

当日は農業者と食品関連事業との活発な交流が行われた